

(様式1) 平成29年度 山梨県立富士北稜高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	個性及び能力の伸長に努め生徒一人一人の進路実現を図ると共に地域の発展に貢献できる人材を育成する。
-----------	--

本年度の重点目標	1 基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業改善に努めるとともに、家庭学習習慣を確立させることを目指す。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 地域への情報発信に努め、生徒が地域と関わる取り組みを積極的に進める。		B	概ね達成できた。(6割以上)
	3 将来を展望したキャリア教育と進路指導を充実させる。		C	不十分である。(4割以上)
	4 特別活動を充実させることで、豊かな人間性を育てる。		D	達成できなかった。(4割以下)
	5 全ての教育活動を通して、ルールを守り、人間として正しく生きようとする規範意識を育てる。			

評価	4	良くてきている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

山梨県立富士北稜高等学校校長 羽田 孝行

自 己 評 価				
本年度の重点目標				年度末評価(3月23日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果 達成度 成果と次年度への課題・改善策
1	生徒の基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業力向上	教員の授業力向上への取り組みの強化 授業評価の実施と思考力・判断力・表現力などを育成する授業の実施 相互授業参観 基礎学力定着に向けた授業の実施及び基礎学力試行テスト実施 基礎学力定着に向けた授業の実施及び確認テストの実施 スモールテスト(国・数・英)の実施 家庭学習習慣の確立と積極的評価 朝読書の実施	公開授業 授業評価 授業評価アンケート 研修会 基礎学力試行テスト実施 スタディーサポート実施 スタディーサポート実施 スモールテスト成績分析 学校評価アンケート 朝読書アンケート	・文科省の「基礎学力定着に向けた学習改善のための調査研究事業」に取り組んでいる。本校における基礎学力の定着づけを行い、学習指導方法及び評価方法を研究した。先生方が基礎学力について、そしてどのように身に付けさせるかについて考えるようになった。 ・課題である「自己表現力の向上」にも取り組んだ。3月の生徒発表会では素晴らしいプレゼンがあった。自己表現力がついてきている生徒もいる。 ・家庭学習の習慣化については不十分である。
2	地域や保護者への情報発信と生徒と地域との交流活動の促進	学校ホームページの充実 学校便り・年次便りの発行 公開授業・公開行事の促進 「総合的な学習の時間」や総合ビジネス系列における実践と連動した連携活動の促進 在宅訪問や地域ボランティア活動の推進 学校間交流活動の推進	ホームページアクセス状況 学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	・富士吉田市と「包括的連携に関する協定」を締結し、連携・協力を双方向で行うことになった。 ・「みんなの貯金箱財団」や「社会創発塾」と体系的なキャリア教育を推進し、地域の課題解決に取り組んだ。 ・今年度も在宅訪問を実施し、高齢者とコミュニケーションを図った。また、ふじざくら支援学校と交流会を持った。 ・ホームページを通じて緊急連絡を行ったが、上手だった。
3	キャリア教育と進路指導の充実	「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の充実 インターンシップの充実 企業・大学との連携 資格取得の増進 進路相談部と各系列・年次との連携の強化 個別の進路指導の強化 進路指導と連動した課題研究への取り組み	学校評価アンケート 学校評価アンケート 資格取得結果 進路検討会 進路実績 学校評価アンケート	・1年次の職場見学や2年次のインターンシップは意識を高め、進路決定に役立っている。 ・「みんなの貯金箱財団」や「社会創発塾」と連携し、キャリア教育を充実させる体制が構築できた。 ・資格取得では、9冠(全商で9つの資格を取得)を達成した生徒がいるなど、成果が現れた。
4	特別活動の活性化	全員入部制(1年次生)の継続と2・3年次生への部活動継続の動きかけ 生徒が主体となった部及び委員会の企画運営と具体的目標・活動計画の設定 文化部の活性化	部活動調査(入部率等) 目標達成度(活動成果) 目標達成度(活動成果)	・1年の入部率は全員入部制をとっているため100%である。しかし、2・3年に上がるにつれて、部活動を継続している生徒の割合は低下する。継続することのできるだけ働きかけたい。 ・文化部の活動も活発になってきている。 ・委員会では、生徒主体の活動がまだ少ない。
5	基本的学習習慣と規範意識の確立	挨拶、服装、言葉遣い、清掃等の指導の徹底 生命や人権、社会的規範を尊重する態度の育成 規範意識を涵養する講演会等の開催	挨拶運動 服装点検 清掃点検 学校評価アンケート 生徒の諸活動状況 生徒感想文等 学校評価アンケート	・毎朝、多くの職員が校門で挨拶運動を行い、生徒を迎える。マナーアップ運動中は、生活委員会やPTA役員にも協力をいただき登校指導を実施した。多くの生徒が挨拶をしてくれると評価をいただいた。 ・問題行動が前年に比べ減った。 ・講演会や年次集会を通じて、生命や人権を尊重する態度を育成し、規範意識を高めることができた。

学校関係者評価		
実施日(平成30年2月10日)		
評価	意見・要望等	
4	・2月10日(土)に行われた生徒発表会は素晴らしいものであった。自ら課題を見つけて自主的に学習し、プレゼンすることの取組は、文科省の事業と関連させて評価してやっても良いのではないかと。 ・基礎学力のみならず、さまざまな課題に対応できる能力の育成が社会では求められている。 ・文科省の研究事業に取り組んでいるようだ。基礎学力を定着させることは良いが、人間の能力は「学校を出ているとかできていない」ということではない。人間は能力が違うのが当然である。	
4	・富士吉田市とは「包括的連携に関する協定」を平成29年11月28日に結んだようだ。富士吉田市は、若者の定住に力を入れている。また、産業や観光の分野でも若者の視点による事業の展開を図っている。是非ともがんばってほしい。 ・「みんなの貯金箱財団」や「社会創発塾」と連携して、地域課題を調査・研究しているようだ。このことがきっかけになり、地元地域に一層関心を抱き、地域活性化の提言を行っていくことを期待している。 ・富士吉田市と協力し、一人住まいの老人宅を訪問して清掃や草取りを行い、高齢者とコミュニケーションを図ったようだ。また、年2回行われる「ふじざくら支援学校との交流会」は、どちらにとっても良い機会である。	
4	・今後はIT機器を駆使して、膨大な情報を扱うようになる。従来の事務業務とは異なったものになることが予想される。このことに対応できるように教育を変化させる必要がある。 ・今後の社会を考えると、人口減少が大きな問題である。人口問題をベースにして、それにもなう産業構造を理解し、商業・工業教育の位置づけを考えていくことが求められる。 ・富士北稜高校は地元への定着も視野に入れて教育していく必要がある。 ・一般社団法人社会創発塾などいくつかの団体と協力してキャリア教育を進めていることが分かった。生徒にとって良いものにしていただきたい。	
4	・挨拶がしっかりとできる生徒がいるが、それは部活動の成果の一つであると思う。部活動をさらに頑張ってもらいたい。 ・スポーツをしていると生活の基本的な部分がしっかりとてくる。クラスでは学べない上下関係の機微を学ぶことができる。こういった意味で、部活動の活性化にさらに力を入れてほしい。 ・社会性のある人間が求められている。生徒が社会と関わりを持てるような活動をより一層取り入れるべきである。そういう視点に立つと部活動は大切だと考える。	
4	・人間力を育成する必要があると考える。営業職に従事していた経験から人間力がとても大事だと感じている。 ・いじめのアンケートを実施するなど、いじめ防止に学校全体で取り組んでいるようだ。人権教育や命の大切さの教育を継続的に実施してほしい。 ・しなやかな心のプロジェクトで、朝の挨拶運動に取り組んでいるようだ。主要な駅で先生方が生徒に声かけをしたり、生徒会や野球部の生徒に手伝ってもらい、校門で挨拶運動を行ったようだ。良い取り組みだと思う。	

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。